

「記録の標準化を目指して」

第1回 実践者が語るF-SOAI^{エフ ソ アイピー}Pがもたらす多様な効果

本誌で好評連載中の「記録革命が未来を拓く」。これまで、介護職、とりわけ相談援助職のための記録法として、小嶋章吾氏（国際医療福祉大学大学院特任教授）と嵩末憲子氏（埼玉県立大学准教授）とが開発したF-SOAI^{エフ ソ アイピー}P（生活支援記録法）を実践に取り入れた様々な現場の専門職にその効果を紹介していただきました。今回から数回にわたり、改めて実践の中身を振り返り、記録の標準化に向けての課題と展望をオンライン座談会で語り合った内容を紹介していきます。



笠松信幸さん
日本介護支援専門員協会常任理事、
かさまつケアオフィス合同会社代表
(本誌2022年5月号掲載)



川添チエミさん
京都府介護支援専門員会副会長
(本誌2021年9月号掲載)



甲田由美子さん
京都府介護支援専門員会
認知症研修ワーキング担当理事
(本誌2021年9月号掲載)



関谷喜代美さん
主任介護支援専門員
日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャー
(本誌2021年10月号掲載)



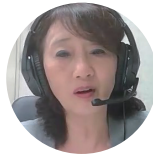
遠藤貴美子さん
株式会社わかばケアセンター
居宅業務管課課長
(本誌2021年10月号掲載)



杉田まどかさん
一般社団法人埼玉県ケアマネジャー協会
(本誌2021年11月号掲載)



福岡博聖さん
広島市観音地域包括支援センター
主任介護支援専門員・社会福祉士
(本誌2022年2月号掲載)



千葉明子さん
台東区社会福祉事業団
総務課主査
(本誌2022年2月号掲載)



小嶋章吾さん
国際医療福祉大学大学院特任教授



嵩末憲子さん
埼玉県立大学准教授

小嶋 福祉職出身でケアマネジャーなど相談援助職に携わっている人にとって、面接技術と同じように記録も技術であると教わってきたにもかかわらず、実際に技術として習得する、身につける機会は果たしてどれほどあったでしょうか。医療専門職が基礎教育の段階でSOAPを学び、スラスラと書けるようになって現場に出ていくのと違い、おそらくもっとも負担に感じている業務の一つが記録ではな

いかと思い、私はずっと心を痛めてきました。中には医療職の影響を受けてSOAPを使ってみたものの、やはりしっくりこないと言ってジレンマに陥る人も見えました。

そこで私と嵩末さんは、医療職と福祉職が共有できるような記録方法として、F-SOAI^{エフ ソ アイピー}Pの開発に至ったのです。

座談会に参加している皆さんは既に実践で使っていていただいて本当に有

り難いと思っています。ただ、記録に問題を感じていても日常業務のほうを優先せざるを得ない、なかなか記録を変えられないという現場が多いのです。そこで、F-SOAI^{エフ ソ アイピー}Pの良さを実感しつつ、普及に向けての難しさも理解していただいている皆さんがオピニオンリーダーとして、介護現場における記録の重要性や、F-SOAI^{エフ ソ アイピー}Pの普及が現場にどのような影響をもたらしていくと思われるかなどを改め